

豪州でのアルカリ・塩化土壌の改良による植林可能性についての研究

平成12年3月17日
北陸電力株式会社

1. 概要

当社では、経営方針の重点事項の一つとして「地球環境に優しい経営活動の展開」を掲げ、「環境へのいたわりを大切に」の理念のもと、原子力の利用・開発を推進するとともに、省エネルギーの推進や循環型社会の構築を目指した取り組みを展開しております。

こうした取り組みの中、地球温暖化対策の具体的施策の一つとして、豪州のアルカリ・塩化土壌の改良による植林の可能性について、豪州国立クィーンズランド大学と共同研究を実施することで協議を行ってきましたが、このたび研究計画が合意に達し、契約・実施の運びとなりましたのでお知らせします。

2. 研究内容

- ・ 基本構想 当社の石炭火力発電所の排煙脱硫装置で発生する石膏を利用し、豪州のアルカリ・塩化土壌を改良するとともに、CO₂の吸収・固定を目的とした植林実施のための最適条件等を研究・評価する。
- ・ 研究体制 北陸電力(株)と国立クィーンズランド大学で共同研究を行い、研究のコーディネーターとして・電力中央研究所が参加
- ・ 研究内容 アルカリ・塩化土壌に対する石膏の最適混合割合の確認
石膏で改良した土壌の物理・化学的特性の把握
樹種毎の根の活着および生育状況の評価
石膏輸送から土壌改良、植林実施までの全体的な経済性評価
- ・ 研究費 3年間で3,000万円
- ・ 研究期間 平成12年4月から15年3月までの3年間
- ・ 研究場所 クィーンズランド大学所有地(豪州; クィーンズランド州)
- ・ 契約者 北陸電力(株)と国立クィーンズランド大学
- ・ 契約締結日 平成12年4月5日(予定)

以上